

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03419

研究課題名(和文)ポスト・モバイル社会に関する社会学的研究

研究課題名(英文)A sociological study on the post-mobile society

研究代表者

富田 英典(Tomita, Hidenori)

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：50221437

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,900,000円

研究成果の概要(和文)：現代社会は、モバイルARの普及によりリアルとバーチャルが重なる社会へと移行しつつあると言われている。それはもはやモバイル社会を超えた「ポスト・モバイル社会」であると考えられる。人びとは日常生活(オフライン)において常にネット上のオンライン情報を参照していた。本研究では、そのような状況を「セカンドオフライン」と定義した。この現象は、現代社会の様々な領域において登場しており、そこには新しい利便性と問題点が生まれていた。特に、職場、学校、医療機関、社会運動では、「セカンドオフライン」現象が顕著に認められ、今後は生活全般に波及していくと思われる。

研究成果の概要(英文)：Modern society is said to be transitioning to a society where the real and virtual overlap due to the spread of mobile AR. It is no longer considered a "post-mobile society." People are constantly referring to online information in their daily, offline lives. In this research, we define the overlap of mobile AR in real life as the "second offline." This phenomenon has appeared in various aspects of modern society, leading to the birth of new convenience and problems. In particular, in the workplace, schools, medical institutions, and social movements the "second offline" phenomenon is clearly recognized, and it seems that it will spread to every aspect of our lives in the future.

研究分野：社会学

キーワード：コミュニケーション 情報 メディア

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、海外では、モバイルメディアがリアルとバーチャルの融合を生み出すとして、それが社会に与える影響に関する研究が Silva, Stapleton, Hjorth, Goggin といったモバイルメディア研究の第二世代に属する研究者たちによって少しずつ始まっていた。例えば、Silva は Milgram らが提起した MR (Mixed Reality) を修正し、パソコンでリアルにバーチャルを重畳する AR (Augmented Reality) に対して、モバイル機器を利用してフィジカル空間にデジタル情報を重畳することを HR (Hybrid Reality) と呼び、スマートフォンの利用は、利用者の空間経験を変化させ、空間の再定義を引き起こすと指摘していた。さらに、Silva らは、スマートフォンの位置情報を利用したアプリケーションに注目しながら、ローカルがネットワーク化された状態が登場しているとして Net Locality という概念を提起していた。また、Goggin も Encoding Place という概念で、位置認識サービスの利用がモバイル技術によって新たな「場所」を構築していることに注目していた。彼らは、Google Earth、Google Maps、Street Views、Botfighters、Foursquare、Loopt などの事例に注目していた。ただ、新たな概念を提起し、さらに総合的に研究する試みは、国内はもとより海外でもまだほとんどなかった。

## 2. 研究の目的

前述した研究者らによって提起された分析概念は限られた領域にしか適用できないという限界がある。そこで本研究では、より広範囲に登場している社会現象を分析するために「セカンドオフライン」という概念を新たに提起した。「セカンドオフライン」とは、iPhone の発売を契機にフィーチャーフォンからスマートフォンへの移行が始まり、さらに Google Glass などの登場により、モバイルメディアの機能と利用方法が多様化した中で、今日、多くの人びとが日常生活（リアル/オフライン）において常にネット上の情報（バーチャル/オンライン）を参照するようになった現象である。この現象がなぜ生じているのか、どのような特徴を持っているのかについて、総合的に研究するのが本研究の目的である。

## 3. 研究の方法

本研究では、当初「ポスト・モバイル社会」について、「家庭」「学校」「地域コミュニケーション」「人間関係」「メディア利用」の5つの「私的領域」、「産業」「経営」「行政」「ワークスタイル」「個人情報利活用」「警察」「ソーシャルメディア」の7つの「公的領域」を設定し研究を開始した。各領域について担当責任者を決定し、担当責任者は、まずこれまでの研究成果と研究枠組みなどについて日本語と英語でその内容を公開する。そのあと、担当責任者を中心に各フィールドワークを実施す

る。同時に並行して複数のフィールドワークを進めることになるため、当初の計画通りに研究が進まない場合は、その都度領域の統合などを検討することにした。最終的には、「歴史的観点」「社会生活」「文化的営み」「ソーシャルメディア」の4領域に再分類して研究を進めた。最終年度には、研究成果を発表するため、海外から4名の研究者を招聘しシンポジウムを開催した。

## 4. 研究成果

「セカンドオフライン」現象は、職場、医療現場、学校、子育てなどの社会生活の場面だけでなく文化面への影響、ソーシャルメディアの社会への影響においても認められた。職場では、テレワーク、ノマドワーク、コワーキング・スペースなどモバイルメディアを利用した新しい働き方が生まれていた。それは、従来のような仕事と家庭を融合する Electric Cottage (Toffler) ではなく、オンラインとオフラインが重なることによって成立している。医療現場では、セカンドオフラインは「情報の見える化」などの形で認められ、医療やヘルスケアの質を高め、集積された情報の利用価値を一段と高めることに貢献していた。学校教育でもモバイルテクノロジーの応用が始まっている。しかし、日本は、韓国、フィンランド、スウェーデン、デンマーク、オーストラリアなどの国々よりかなり遅れている。これらの国々では、AR 技術を取り入れた教科書教材、3D 技術を使うことによる体感的な学習などがすでに導入されており、教室空間とメディア空間の重畳というセカンドオフライン状況が登場している。子育てにおいては、子育て中の乳幼児を持つ母親がモバイルメディアを利用してネットワークを構築・維持・再生産するというオン/オフラインが併存する環境が登場しており、そこで相互行為や人間関係のマネジメントが行われている。従来、オンラインはオフラインに対して連続的だが独立した空間として考えられてきた。ところが、メディアの利用経験によって鍛えられた私たちの想像力によりオフラインの社会的現実の中に投影・統合され、次々とつながり一体化してしまう重合反応（ポリ-リアリティ）が発生している。

文化面での影響は、娯楽（モバイルコンテンツ）、恋愛、監視について取り上げた。モバイルコンテンツにも大きな転換が生じていた。スマートフォンは「究極の近く」としての「私・いま・ここ」を志向するようになっていく。スマートフォンのコンテンツが「より遠く」とは対極の「究極の近く」としての「私・いま・ここ」の文脈に作り出す「語り尽くせぬ豊かさを得た私」に、セカンドオフライン社会の未来を見出すことができる。大学生の恋愛事情について、恋愛に対する消極性とメディア利用の間の関連性に注目する必要があることが分かった。親密な人間関係におけるモバイルメディアの使用、恋愛なき彼氏と彼女、恋

愛消極性、二次元恋愛などとモバイルメディア利用の関係についてもさらに研究が必要である。監視の問題については、スマートフォンでやり取りするパーソナルデータは、管理と運用しだいでメリットだけでなく、リスクにもなり得る状況におかれている。個人の生活環境をセカンドオフライン化させる上で重要な役割を担うのはスマートフォンである。私たちは、セカンドオフライン社会のリスクをきちんと認識すべきである。ソーシャルメディアの社会への影響については、震災、社会運動、共有ニュースやフィルターバブルについて取り上げた。東日本大震災時におけるモバイル・ソーシャルメディアが果たした情緒的・感情的な共有回路としての役割が明らかになった。それは、絶望感が氾濫する災害の時のオフライン空間にオンライン情報が重ねられた状況を浮き彫りにしている。社会運動については、新しい「ツイッター革命」「フェイスブック革命」が登場したが、それは、まさにオンラインの場とオフラインの場とが重畳した独特の空間であるセカンドオフラインそのものであった。ソーシャルメディアは、セカンドオフラインを象徴するメディアである。人々は、様々なソーシャルメディアを利用して現実空間にオンライン情報を重ねている。本研究では、共有ニュースへの接触がフィルターバブルを引き起こすか否かを定量的なデータを用いて検証し、ポスト・モバイル社会におけるオフラインとオンラインの相互作用を考察し、強い紐帯の多いソーシャルメディア利用が人々の社会認識に影響を与えていることを明らかにした。

最終年度には、この研究分野で活躍している4名の研究者を海外から招聘しシンポジウムを開催し研究成果を公開した。今後はさらに海外の研究者との共同研究を進めたい。また、当初の予定通り、研究成果を英書(Routledge)と和書(世界思想社)で刊行した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計32件)

- ① 天笠邦一、子育てにおけるサポート・ネットワークとソーシャルメディア利用の地域的差異に関する一考察、学苑、928号、2018年、23~34頁、査読無。
- ② 木暮祐一、わが国における携帯電話30年の歩みと将来に向けた展望、モバイル18研究論文集(モバイル学会)、1巻、2018年、71~78頁、査読無。
- ③ 木暮祐一、携帯電話30年の歩みと今後の展望—ショルダーホンからスマートフォン、ウェアラブル、IoTの時代へ—、電気学会誌(電気学会)、137巻、2017年、556~559頁、査読無。
- ④ 伊藤昌亮、バッシングと炎上の社会学に向けて、日本コミュニケーション研究者会議

プロシーディングズ、26号、2017年、1~30頁、査読無。

⑤ 荒木淳子、正木郁太郎、松下慶太、伊達洋、伊達洋、企業で働く女性のキャリア展望に影響する職場要因の検討、経営行動科学、30巻、2017年、1~12頁、査読有。

⑥ 上松恵理子、最新のテクノロジーを活用した教育方法の現状、サービソロジー学会誌、4巻、2017年、6~9頁、査読無。

⑦ KIM, Kyoung-hwa Yonnie, Mobile Visual Practices: From a media archaeological approach for visual Apparatus, Journal of Communication Research, Korean Institute of Communication Research, No.45-1, 2017, 47-74, 査読有。

⑧ OKADA, Tomoyuki and Léo-Paul Dana, National Media Events and Information & Communication Technology: Innovative World Fairs of the Early Twenty-First Century, The International Journal of Entrepreneurship and Innovation Management, Vol. 21, No. 3, 2017, 234-241, 査読有。

⑨ 天笠邦一、ソーシャルメディアの選択的利用に関する一考察：趣味の選択とハビトウスの観点から、学苑、916号、2017年、12~23頁、査読有。

⑩ 松田美佐、若者の海外志向を規定するのは何か：大学生調査の分析より、中央大学文学部紀要、26号、2016年、11-41頁、査読無。

⑪ 上松恵理子、コミュニケーションの変容とメディアリテラシー—新たなリテラシーの観点から、武蔵野学院大学研究紀要、13輯、2016年、139-151頁、査読無。

⑫ 岡田朋之、香月梨沙、北田佳子、鶴山聖、濱崎美香、被災地におけるメディアリテラシー・ワークショップを用いた調査実践の試み、関西大学総合情報学部紀要『情報研究』、43巻、2016年、1-17頁、査読無。

⑬ 上松恵理子、ここまで来た！ アプリケーションによる個人学習：0。編集にあたって、情報処理、57巻9号、2016年、884~885頁、査読有。

⑭ 上松恵理子、海外の経年的調査における理数系の早期教育、情報処理、58巻1号、2016年、70~70頁、査読無。

⑮ 松下慶太、高瀬浩之、デジタル時代のキャリア教育実践—社会人へのインタビュー映像制作ワークショップを通して—、デジタル教科書研究、3巻、2016年、24~40頁、査読有。

⑯ 木暮祐一、スマートデバイスの医療分野での応用、臨床栄養、128巻5号、2016年、556~562頁、査読無。

⑰ 木暮祐一、青森の活性化に向けた、もっと身近なところでのICT利活用、月刊れちおん青森(青森地域社会研究所)、Vol.38 No.453、2016年、10~17頁、査読無。

⑱ 伊藤耕太、妄想力”の冒険—北斎、ビッグデータ、そしてワイルドアイデアへ、JAAA REPORTS (一般社団法人日本広告業協会)、通巻722号、2016年、19~27頁、査読有。

- ⑬ 藤本憲一、独居者たちの共食論理—“尻軽(モバイル)”な街コンからスカイブ飯まで、vesta、100号、2015年、50-55頁、査読無。
- ⑭ 木暮祐一、外国人持ち込みスマホは法律違反? すっきりわかる「技適」問題、日経network、6巻、2015年、53-60頁、査読無。
- ⑮ 神崎秀嗣、木暮祐一、医療機関でのWearable deviceの必要性と教育、ITヘルスケア、10巻1号、2015年、53-60頁、査読無。
- ⑯ 今津研太郎、津村忠助、廣瀬隼、木暮祐一、宇宿功市郎、セキュリティの高さと低導入コストを両立させたモバイル懸隔医療診断システム「XMIX」の開発、ITヘルスケア、10巻1号、2015、85-87頁、査読無。
- ⑰ 木暮祐一、ウェアラブルデバイスを現場で活用する時代、りそなーれ、10巻、2015年、11-14頁、査読無。

[学会発表] (計 59 件)

- ① 木暮祐一、わが国における携帯電話 30 年の歩みと将来に向けた展望、モバイル学会シンポジウム「モバイル'18」、静岡大学 浜松キャンパス、2018年3月15~16日。
- ② 木暮祐一、中古スマートフォン流通の国際動向と国内流通の将来展望に関する考察、日本情報経営学会第74回全国大会、龍谷大学深草キャンパス、2017年、11月18~19日。
- ③ 岡田朋之、モバイル・メディアにおける参加型デザインの可能性の検討、情報通信学会第37回大会、早稲田大学、2017年11月18日。
- ④ 辻泉、土橋臣吾、飯田豊、伊藤昌亮、ネットワーク社会の地層史、日本マス・コミュニケーション学会 2017 年度秋季研究発表会、成城大学、2017年10月28日。
- ⑤ UEMATSU, Eriko, Tactile mobile photography, The conference Emerging Media: Connection, Innovation & Transformation, Peking University, Sep. 15, 2017.
- ⑥ MATSUSHITA, Keita, Work style and Well-being in Japan, ISQOLS 15th Conference, Innsbruck, Austria, Sep.28~30, 2017.
- ⑦ 笹島秀晃、山本唯人、伊藤昌亮、竹田恵子、渡辺寛人、文貞實、鈴木久美子、都市/社会運動、日本都市社会学会第35回大会「ラウンドテーブル2」(招待講演)、早稲田大学、2017年9月9~10日。
- ⑧ OGASAHARA, Morihito, Hirotaka Kawashima, and Hiroyuki Fujishiro, How did the rumors on Twitter diffuse and change the expression? An investigation of the process of spreading rumors on Twitter during the 2011 Great East Japan Earthquake, Melbourne, Australia, Aug.19 and 20, 2017.
- ⑨ KIM, Kyoungwha Yonnie, Technological dropouts: Struggles and strategies of elderly people, International workshop “Care, media and ritual: Creative, design, social and ethnographic interventions”, Tokyo, Japan, July 29, 2017.
- ⑩ 伊藤昌亮、モバイル通信に関する国際シ

ンポジウム "Are You Second Offline?" The Diversity of Post-Mobile Society、情報通信学会関西大会(国際シンポジウム)パネリスト、関西大学梅田キャンパス、2017年、7月1~2日。

- ⑪ 天笠邦一、関係性を持ち歩くことの社会的意味、情報通信学会関西大会(国際シンポジウム)分科会(2)、2017年、7月1~2日。
- ⑫ 木暮祐一、セカンドオフラインは地域振興に役立つか?、情報通信学会関西大会(国際シンポジウム)分科会(2)、2017年、7月1~2日。
- ⑬ 富田英典、"Are You Second Offline?" The Diversity of Post-Mobile Society、情報通信学会関西大会(国際シンポジウム・分科会(1)(2)(3))総括討論者、関西大学梅田キャンパス、2017年、7月1~2日。
- ⑭ 藤本憲一、"Are You Second Offline?" The Diversity of Post-Mobile Society、情報通信学会関西大会(国際シンポジウム)パネリスト、関西大学梅田キャンパス、2017年、7月1~2日。
- ⑮ 松田美佐、"Are You Second Offline?" The Diversity of Post-Mobile Society 「文化としてのモバイルメディア」、情報通信学会関西大会(国際シンポジウム)パネリスト、関西大学梅田キャンパス、2017年、7月1~2日。
- ⑯ 西端律子、小川修史、杉本義己、岡耕平、木暮祐一、(公開指定討論)障がい支援の実践から考えるモバイル・ICT活用、モバイル学会、大阪大学、2017年3月8日。
- ⑰ 上松恵理子、日本語教育と国語科教育との融合における情報教育の果たすべき役割、日本英語教育学会・日本教育言語学会、早稲田大学、2017年3月4日。
- ⑱ 太田健二、増田聡、津田大介、伊藤昌亮、永田夏来、ポピュラー音楽と政治の現在—フジロック『音楽に政治を持ち込む』問題を中心に、日本ポピュラー音楽学会年次大会、立教大学、2016年12月4日。
- ⑲ KIM, Kyoungwha Yonnie, The reflexive front: Digital media and creative methods, Media Education Summit 2016, Roma, Italy, Nov.4, 2016
- ⑳ 天笠邦一、子育て期におけるメディア利用と社会的ネット、社会情報学会、札幌学院大学、2016年9月11日。
- ㉑ 遠藤薫、吉原直樹、金菱清、金成ミン、伊藤昌亮、社会情報学からみた場所と移動、社会情報学会、札幌学院大学、2016年9月10日。
- ㉒ OGASAHARA, Morihito, Effects and Selective Exposure of Online Election Campaigns in the 2013 and 2014 Japanese National Election, Preconference: New Media and Citizenship in Asia: Communicating with Power, 66th Annual ICA Conference Fukuoka, Fukuoka Sea Hawk Hilton Hotel, July 9, 2016.
- ㉓ 松下慶太、ワークプレイスを巡る場所論、情報通信学会、東京国際大学、2016年9月5日。

- ②④ KIM, Kyoung-hwa Yonnie, The birth of detective stories and Kyungsung of the 1930s: Urban sensibilities in Kim Naesung's Oevres, Cultural Typhoon 2016, 東京藝術大学, July 3, 2016.
- ②⑤ 天笠邦一, ポリ・リアリティ——社会学的想像力の喚起装置、情報通信学会、東京国際大学、2016年6月26日。
- ②⑥ MATSUSHITA, Keita, Mediated Work Place and Work Styles As Second Offline: The Case Study of Coworking Space in Shibuya, Japan, Third ISA Forum of Sociology, Vienna, Austria, June 12, 2016.
- ②⑦ KOGURE, Yuichi, Utilization of smart devices for the medical & elderly care field, The International Communication Association Mobile Preconference, Fukuoka Art Museum, June 8, 2016.
- ②⑧ OKADA, Tomoyuki, Larissa Hjorth, Ichiyo Habuchi, Masaaki Ito, Yuichi Kogure, Mobile Media and Communication in East Asia, The International Communication Association Mobile Preconference, Fukuoka Art Museum, June 8, 2016.
- ②⑨ 伊藤昌亮, パッシングと炎上の社会学に向けて、日本コミュニケーション研究者会議、愛知淑徳大学、2016年5月14日。
- ③⑩ 上松恵理子, グローバル社会を背景にした海外における教育の動向、第116回次世代大学教育研究会、長崎大学、2016年4月16日
- ③⑪ OGASAHARA, Morihiro, Hongchun Lee, Shoko Kiyohara, Blake Miller, and Diana Owen, The Internet and Elections: Asian Perspectives, 87th Southern Political Science Association Annual Conference, the Caribe Hilton in San Juan, Puerto Rico, 7th - 9th Jan 2016.
- ③⑫ OKADA, Tomoyuki, The rise and fall of Japanese 'smart' mobile phones: Why are Japanese mobile-phone manufacturers defeated by Apple, Samsung and others?, Mobile media and everyday lives: Bridging Finland and Japan, University of Helsinki, Finland, Dec 03, 2015.
- ③⑬ KIM, Kyoung-hwa, Mobile digital photography: A reflexive approach of mobile everyday practices, mobile media and everyday lives: Bridging Finland and Japan, University of Helsinki, Finland, Dec.3, 2015
- ③⑭ OKADA, Tomoyuki, Mamiko Hayashida, Yuko Tsuchiya, Yorio Kitamura, Tatsuo Sugimoto, When Does Youth Become Creative? : Exploring Key Elements of Media Workshop Programs to Enhance Creativity, Media Education Summit 2015, Emerson College, Boston, MA, USA, November 20 - 21, 2015
- ③⑮ KIM, Kyoung-hwa, The offstage of Galapagos keitai discourse, All I need is Love? Nation, Affect and Aversion in a post-imagined -community Asia, National Taiwan Normal University, Taipei, Oct.23-24, 2015.
- ③⑯ 上松恵理子, 各国に見る教育の情報化と情報教育の現状、コンピュータ利用教育学会 (CIEC) 第106回研究会、青山学院大学、2015年6月6日。
- ③⑰ 上松恵理子, アクティブ・ラーニングへの取組と課題-ICTの教育活用事例研究-, 一般社団法人ブロードバンド推進協議会研究会、銀座 CHAIRS、東京、2015年10月23日。
- ③⑱ KUNO, Yasushi, Ben Tsutom Wada, Yasuichi Nakayama, Takeo Tatsumi, Eriko Uematsu, K12 IT Education in Japan: Current Status and Future Directions, The 23rd IFIP World Computer Congress, IT Educaiton Forum, 韓国大田コンベンションセンター、韓国、2015年10月5~12日。
- ③⑲ 荒木淳子, 高橋薫, 館野泰一, 松下慶太, 伊達洋駆, 「キャリア教育」の今を知る!ある日突然「キャリア教育」を担当することになった教員のためのワークショップ、日本教育工学会第31回大会ワークショップ、電気通信大学、2015年9月21~23日。
- ④⑰ 和田勉, 中山泰一, 辰己丈夫, 上松恵理子, わが国の初等中等情報教育: 現状と将来に向けた目標体系の提案、日本ソフトウェア科学会第32回大会、早稲田大学、2015年9月9日~11日。
- ④⑱ 長谷川春生, 上松恵理子, 伊藤一成, 松下慶太, タブレット端末を活用した情報モラル学習に関する研究、デジタル教科書学会2015年度年次大会、ノボテル札幌、北海道2015年8月11~12日。
- ④⑳ KIM, Kyoung-hwa, The early mode of everyday media practice: Postcards in the Japanese modern era, Inter-Asia Cultural Studies Conference, Universitas Airlangga, Surabaya, Indonesia, Aug.7-9, 2015
- ④㉑ KIM, Kyoung-hwa, A skill of being there: Transformation of photography, International Association for Media and Communication Research Conference, Palais des Congres de Montreal, Canada, July 12 - 16, 2015.
- ④㉒ OKADA, Tomoyuki, Mobile Communication in Japan: A distorted Information Society, Journee D'Etudie Franco-Japonaise, Recherches en Communication, Maison des Sciences de l'Homme Paris Nord, France, June 29, 2015.
- ④㉓ MATSUSHITA, Keita, Mediated Work Place and Work Style, Recherches en Communication, Maison des Scences de l'Homme Paris Nord, Paris, France. June 29, 2015.
- ④㉔ UEMATSU, Eriko, ICT Education in Japanese Schools, Recherches en Communication, Maison des Scences de l'Homme Paris Nord, Paris, France, June 29, 2015.
- ④㉕ 天笠邦一, 井上絢華, 小川克彦, アイドルフアンコミュニティの分析—コミュニケーションモデルと社会関係資本、情報通信学会、青山学院大学、2015年6月20~21日。
- ④㉖ 小川克彦, 岩松祐輝, 天笠邦一, ローカルテンポの計測とその要因に関する研究、情報

通信学会、青山学院大学、2015年6月20～21日。

④⑨ 天笠邦一、Instagramがファッションの情報流通に与えた影響について、情報通信学会、青山学院大学、2015年6月20～21日。

⑤⑩ 松下慶太、ワークプレイス／スタイルとセカンドオフライン、情報通信学会、青山学院大学、2015年6月20～21日。

⑥⑪ 金キョンファ、写真撮り実践の変容とSNSの示唆、情報通信学会、青山学院大学、2015年6月20～21日。

⑫⑬ 藤本憲一、「アンチユビキタス・テリトリーマシシ（偏在的居場所機会）」としての人間、ソフトウェア・シンポジウム～ソフトウェア開発の未来～、(主催)ソフトウェア技術協会(SEA)、和歌山県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛、2015年6月5～7日。

〔図書〕(計13件)

① Darling=Wolf, Fabienne (ed.), Kyoung-hwa Yonnie Kim (Contributor), Routledge handbook of Japanese media, Routledge, 2018, 436.

② KIYOHARA, Shoko, Kazuhiro Maeshima, and Diana Owen (eds.), Morihiro Ogasahara (Contributor), Internet Election Campaigns in the United States, Japan, South Korea, and Taiwan. Palgrave Macmillan, 2018, 212.

③ KIM, Kyoung-hwa & Masaaki Ito, Demonstrations in the twenty-first century, Nulmin Books, 2018, 250.

④ 菅原良、松下慶太、木村拓也、渡部昌平、神崎秀嗣、キャリア掲載支援の方法論と実践、東北大学出版会、2017年、342頁。

⑤ 菅原良、福田哲哉、松下慶太(監訳)、若者のキャリア形成 スキルの獲得から就業力の向上、アントレプレナーシップの育成へ< OECDスキル・アウトLOOK 2015年版>、明石書店、2017年、224頁。

⑥ ELEA, Ilana and Loghar Mikos (eds.), Kyoung-hwa Yonnie Kim (Contributor), Young & Creative. Digital Technologies Empowering Children in Everyday Life, Gothenburg: Nordicom, 2017, 225.

⑦ 富田英典(編著)、ポスト・モバイル社会—セカンド・オフラインの世界、世界思想社、2016年、292頁。

⑧ 上松恵理子、小学校のプログラミングがやってきた 超入門編、三省堂、2016年、141頁。

⑨ TOMITA, Hidenori (ed.), The Post-Mobile Society: From the Smart/Mobile to Second Offline, Routledge, 2016, 167.

⑩ 荒木淳子・伊藤洋駆・松下慶太、キャリア教育論、慶應義塾大学出版会、2015年、232頁。

⑪ HJORTH, Larissa & Olivia Khoo (eds.), Kyoung-Hwa Kim (Contributor), Routledge Handbook of New Media in Asia. Routledge, 2015, 488.

〔その他〕(計1件)

① International Symposium on Mobile Communications: “Are You Second Offline?” The Diversity of Post-Mobile Society. 関西大学梅田キャンパス、2017年7月1～2日。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

富田 英典 (TOMITA HIDENORI)

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：50221437

### (2) 研究分担者

① 藤本 憲一 (FUJIMOTO KENICHI)

武庫川女子大学・生活環境学部・教授

研究者番号：00248121

② 小笠原 盛浩 (OGASAHARA MORIHIRO)

関西大学・社会学部・准教授

研究者番号：00511958

③ 木暮 祐一 (KOGURE YUICHI)

青森公立大学・経営経済学部・准教授

研究者番号：20565303

④ 松田 美佐 (MATSUDA MISA)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：30292783

⑤ 上松 恵理子 (UEMATSU ERIKO)

武蔵野学院大学・国際コミュニケーション学部・准教授

研究者番号：50594462

⑥ 天笠 邦一 (AMAGASA KUNIKAZU)

昭和女子大学・人間社会学部・講師

研究者番号：60722171

⑦ 羽濑 一代 (HABUCHI KAZUYO)

弘前大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：70333474

⑧ 岡田 朋之 (OKADA TOMOYUKI)

関西大学・総合情報学部・教授

研究者番号：80268333

⑨ 松下 慶太 (MATSUSHITA KEITA)

実践女子大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：80422913

⑩ 伊藤 昌亮 (ITO MASAOKI)

成蹊大学・文学部・教授

研究者番号：80548769

⑪ 金 キョンファ (KIM KYOUNGHWA YONNIE)

神田外語大学・外国語学部・講師

研究者番号：90646481

### (3) 研究協力者

① 伊藤 耕太 (ITO KOTA)

博報堂・第二プランニング局・マーケティングプランナー

② 吉田 達 (YOSHIDA ITARU)

東京経済大学・コミュニケーション学部・特任講師